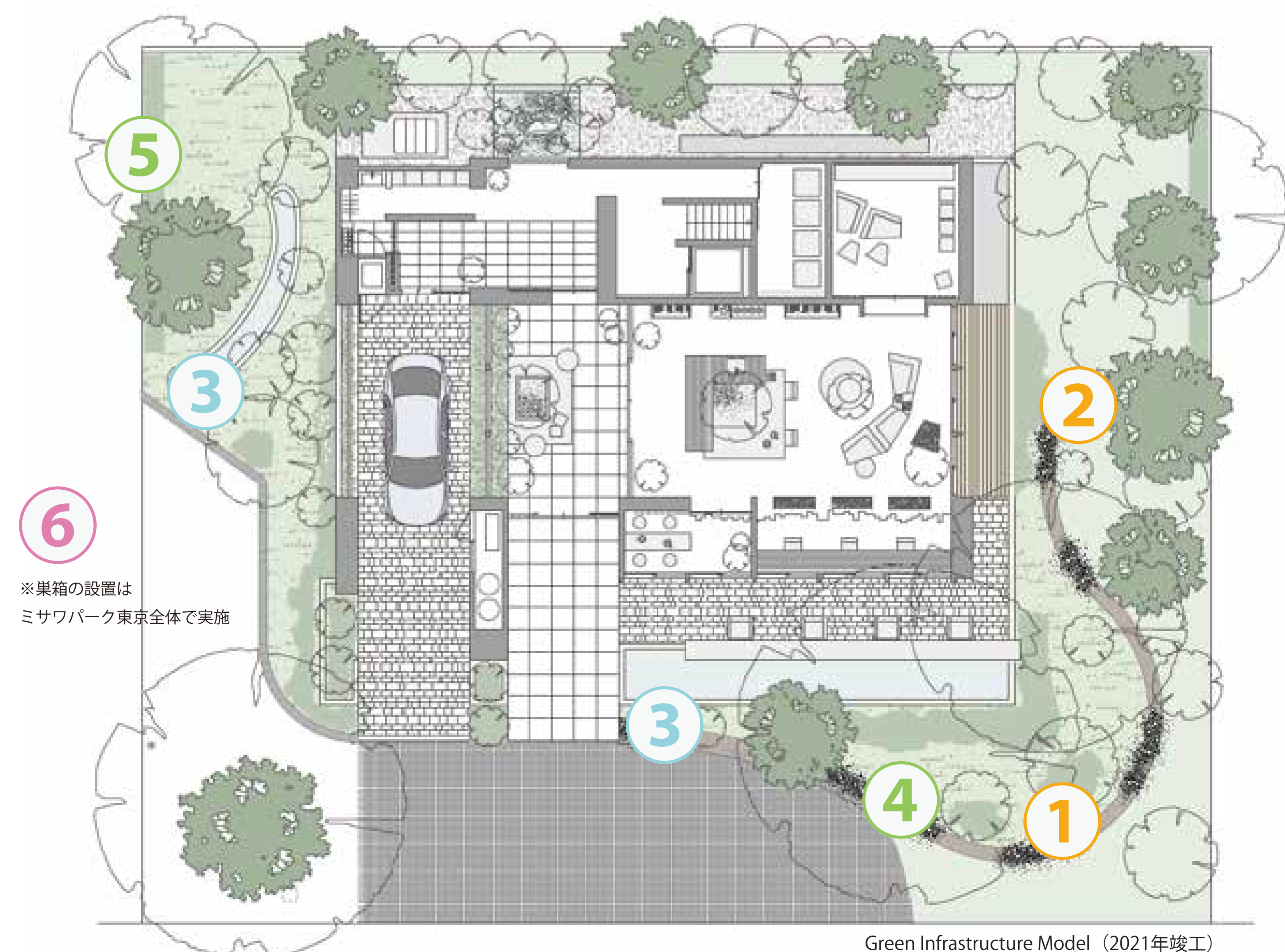


for Eco up

生命あふれる住環境のために



ウィズガーデンは、モデル棟の建設にあたり、敷地内の環境調査を実施しました。その調査結果を元に、緑だけではなく、モデル棟のある敷地全体を高井戸の貴重な資源として、都市の生態系に寄与できるようなエコアップを行いました。モデル棟の建替え後も生物調査を定期的に続け、小さな緑の点でも、周辺から生き物が訪れ、更にはここで育った生き物が街へと拡がっていくという実践を実証しています。

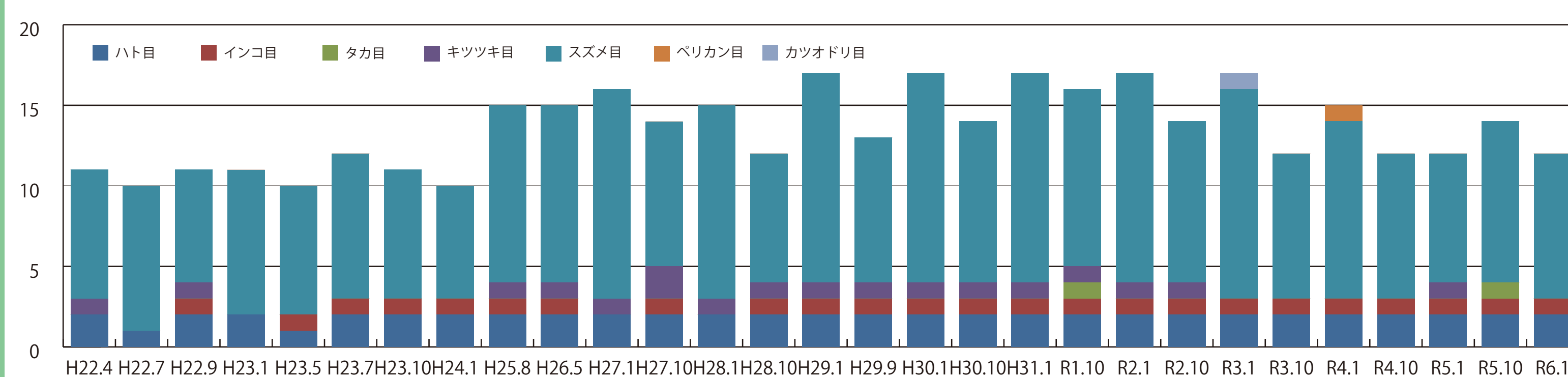


エコアップによる経年変化

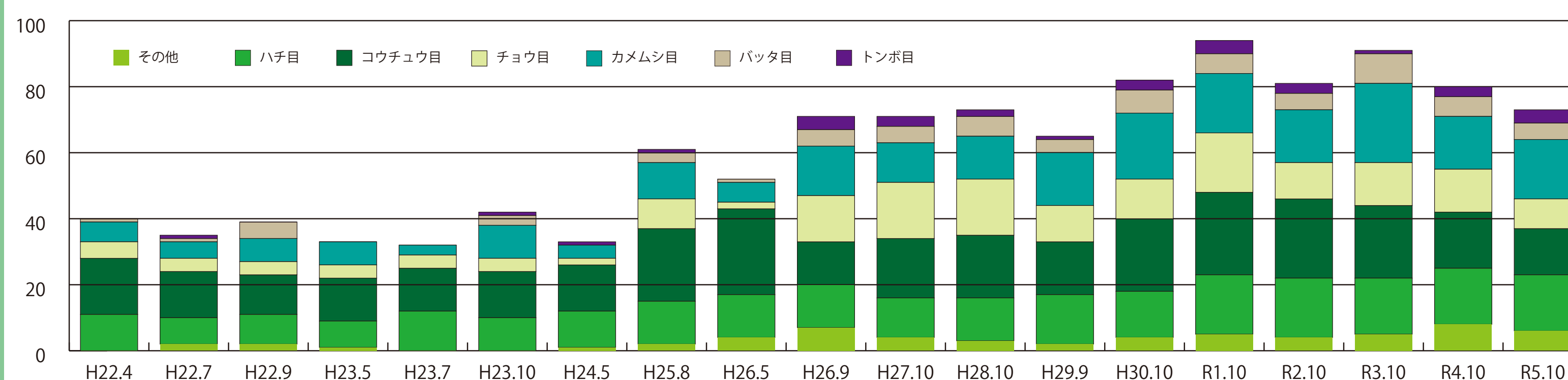
効果は4年目に？生息種数が大幅に増加！！

2010(平成22)年にエコフラグシップモデル棟を含むミサワパーク東京全体でエコアップに取り組んだ結果、調査によって確認された種数は2013(平成25)年夏季に大幅に増加しました。鳥類たちによる採餌や休息場所としての利用に加え、営巣地としての利用も進んでいます。また昆虫類は食草と水辺環境の整備でチョウ類とトンボ類の誘致に成功し、種構成の多様化を生み出しました。その後、2021年の「Green Infrastructure Model」に建て替える際には、ビオトープ池の生き物の捕獲・保存・移植を行い、GDDを活用したエコアップの効果が持続していけるよう細やかな取り組みを行っています。

野鳥の確認種数経年変化



昆虫の確認種数経年変化



ウィズガーデン株式会社

Eco up 1 実のなる木を植える

採餌環境の創出



餌場として利用する野鳥の種数が増加
メジロ、シジュウカラ、キジバト、ヒヨドリをはじめとする多くの野鳥の餌場として活用されています。

Eco up 2 昆虫の食草を植える

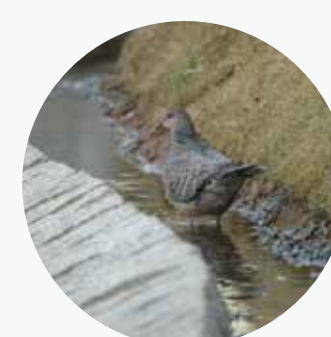
採餌環境の創出



ミカン科樹木の植栽をアゲハ類が利用
ミカン科樹木の植栽により、それらを食草とするナミアゲハやクロアゲハ（卵・幼虫）が誘引されました。

Eco up 3 水辺の設置

水辺環境の創出



鳥の餌場と水飲み場として
ハクセキレイの採餌場、キジバト、ハシブトガラスの水飲み場として活用されています。



トンボの産卵場所として
モノサシトンボやアジイトトンボの生息と産卵が確認されています。2種とも当初は敷地内で発見されなかったイトトンボです。



両生類、哺乳類等の増加
アズマヒキガエル（オタマジャクシ）の放流により、それらを餌とするカナヘビが敷地内に誘引され、生息種が増加しました。また放流から3年目となる2014年の冬には、アズマヒキガエルの成体（親ガエル）による産卵が確認されました。

Eco up 4 生物に配慮した植栽管理

生息環境の創出



生物に配慮した管理で地上性昆虫の数が増加
落ち葉をそのまま敷地に残したり、殺虫剤の使用を抑制するといった植栽管理を行った結果、地上性昆虫類の生息種数と個体数が増加しています。

Eco up 5 放置エリアの設置

生息環境の創出



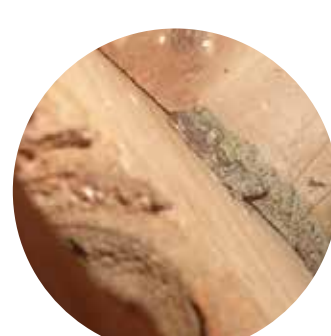
食草を植え、チョウの産卵に役立てる
ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサを植栽し、産卵場所を確保しました。また下草の繁茂によりコオロギ類、ゴミムシ類、糞虫類の生息種数が増加しました。

Eco up 6 巣箱の設置

営巣環境の創出



シジュウカラは2/3の高確率で巣箱を利用
敷地内にシジュウカラ用の巣箱を3つ設置したところ、最大2つがい営巣しました。初年から使い続けられているため巣穴が広がり、少し体の大きいスズメに乗っ取られ



巣箱を越冬に利用する生き物も出現
冬季に確認したところ3つの巣箱全てで越冬するヤモリを発見しました。シジュウカラやヤモリ等、木の洞を利用する生物にとって重要な営巣・生息環境になっています。